

多文化共生社会と 〈やさしい日本語〉

一橋大学国際教育センター教授 庵 功雄

isaoiori@courante.plala.or.jp

<http://www12.plala.or.jp/isaoiori/>

1. 外国人への情報提供

- 定住外国人の増加
- 外国人への情報提供の必要性

1. 外国人への情報提供

- 外国人への情報提供（庵2016）
- <誰に>
- 一時滞在者
- 定住者
- <どんな場合に>
- 災害時
- 平時

1. 外国人への情報提供

- 外国人への情報提供
- <誰に> <どんな場合に>
- 一時滞在者 平時
- (必要なこと)
- →英語 (ローマ字を含む) での適切な表記
- kokyo : kokyō (故郷) 、 kōkyo (皇居) 、
- kōkyō (公共)
- Toyama : Toyama (富山) 、 Tōyama (遠山)

1. 外国人への情報提供

- 外国人への情報提供
- <誰に> <どんな場合に>
- 一時滞在者 災害時
- 定住者
- (必要なこと)
- → 災害時の「やさしい日本語」
- → 佐藤発表

1. 外国人への情報提供

- 外国人への情報提供
- <誰に> <どんな場合に>
- 定住者 平時
- (必要なこと)
- → <やさしい日本語>

2. 2種類の〈やさしい日本語〉

- 居場所作りのための〈やさしい日本語〉
- バイパスとしての〈やさしい日本語〉

3. 居場所作りのための〈やさしい日本語〉

- 新来の定住外国人にとって最も重要なこと
- →日本を「**居場所**」だと感じられること
- →母語で言えることを日本語でも言えるようになること（イ2013）

3. 居場所作りのための〈やさしい日本語〉

- 居場所作りのための〈やさしい日本語〉の3つの側面
- 1. 初期日本語教育の公的保障の対象としての
 〈やさしい日本語〉
- 2. 地域社会の共通言語としての〈やさしい日本語〉
- 3. 地域型初級としての〈やさしい日本語〉

3. 居場所作りのための〈やさしい日本語〉

- 居場所作りのための〈やさしい日本語〉の3つの側面
- 1. 初期日本語教育の公的保障の対象としての
- 〈やさしい日本語〉
- 定住外国人が日本で生きていくのに必要な最低限の日本語教育を、公費により、プロの手で行うことが必要
- →文法シラバスには「体系性」と「簡潔性」が必要

3. 居場所作りのための〈やさしい日本語〉

- 居場所作りのための〈やさしい日本語〉の3つの側面
- **2. 地域社会の共通言語としての〈やさしい日本語〉**
- ← 地域住民と定住外国人との共通言語
- ← 英語は共通言語になり得ない（岩田2010）
- ← 「普通の日本語」も共通言語になり得ない
- → 共通言語に**なり得る**のは〈やさしい日本語〉だけ

3. 居場所作りのための〈やさしい日本語〉

- 居場所作りのための〈やさしい日本語〉の3つの側面
- **2. 地域社会の共通言語としての〈やさしい日本語〉**
- → **共通言語になり得るのは〈やさしい日本語〉だけ**

日本語母語話者〈受け入れ側の日本人〉

↓ コード（文法、語彙）の制限、

日本語から日本語への翻訳

やさしい日本語（地域社会における共通言語）

↑ ミニマムの文法（Step1, 2）と語彙の習得

日本語ゼロビギナー〈生活者としての外国人〉

3. 居場所作りのための〈やさしい日本語〉

- 居場所作りのための〈やさしい日本語〉の3つの側面
- **3. 地域型初級としての〈やさしい日本語〉**
- 学校型日本語教育と地域型日本語教育（尾崎2004）

	学校型	地域型
参加者間の関係	教師－学生（契約関係） 教えるのはプロ	学び合い 教えるのはボランティア
滞在目的	留学	技能実習、就業、結婚など
標準授業時間数	週20時間（初級）	週2時間（1回当たりの時間）

3. 居場所作りのための〈やさしい日本語〉

- 居場所作りのための〈やさしい日本語〉の3つの側面
- **3. 地域型初級としての〈やさしい日本語〉**
- →学校型の手法（文型積み上げ式など）を地域型に持ち込んでもうまくいかない
- →地域型のための初級（「地域型初級」）が必要
- →Step1, 2（庵2015a）

4. バイパスとしての〈やさしい日本語〉

- **言語的少数者（マイノリティー）に対する言語保障**
- →外国にルーツを持つ子どもたち
- ろう児
- <共通する問題点>
- 高校進学率の低さ
- 漢字の壁（庵2016a）など
- <共通する希望>
- 彼／彼女たちが「努力すれば報われる」社会的基盤が作れば、これからの日本社会を作る上での大きな人的資源になる

4. バイパスとしての〈やさしい日本語〉

- **言語的少数者（マイノリティー）に対する言語保障**
- **〈共通する希望〉**
- **彼／彼女たちが「努力すれば報われる」社会的基盤が作れれば、これからの日本社会を作る上での大きな人的資源になる**
- **→ 高校進学時、遅くとも高校卒業時までには、日本人と対等に競争できる学力を身につける必要がある**
- **→ 高校進学率を飛躍的に高める必要がある**
- **→ 現状では、日本人と彼／彼女たちの間には圧倒的な日本語能力の差がある**
- **→ バイパスとしての〈やさしい日本語〉の必要性**

4. バイパスとしての〈やさしい日本語〉

- **外国にルーツを持つ子どもたちの場合**
- ← 高校進学率を飛躍的に高めることが必要
- → 中学教科書の内容が理解できることが必要
- → 中学教科書を読むことに特化した総合日本語教科書を作る
- → 中学教科書をコーパスとし、語彙、漢字、文法それぞれについて、必要なものから学べるシラバスを作る（庵2015b、庵・早川印刷中）

4. バイパスとしての〈やさしい日本語〉

- **ろう児の場合**
- ろう児にとって「口頭日本語」は母語ではない
- ろう児にとっての母語は「日本手話」である（べき）
- 日本手話は自然言語である（）
- →L1（第一言語）を持っている学習者にL2（第二言語）として日本語を教える
- →日本語教育の知見が最も活かせる（Iori & Oka2016）

5. その他の課題

- **他の言語的マイノリティーに対する言語保障**
- **知的障害者 (cf. あべ2015)**
- **「だれでも参加できるじゃんけん」**
- **EPA看護師／介護士に関する言語問題**
- **法廷通訳、医療通訳**

6. 〈やさしい日本語〉に必要なもの

- 〈やさしい日本語〉に必要なこと
- 相手の立場に立って考えられること（「**お互い様の気持ち**」）
- → 神戸市三宮駅
- 市営地下鉄からポートライナーに乗り換えるために掲示をたどっていくと、途中で掲示が消える。
- ← 「**地理に不案内な人**」の立場に立って掲示を検討する。
- → 〈やさしい日本語〉以前の問題

引用文献

- あべやすし (2015) 『ことばのバリアフリー 情報保障とコミュニケーションの障害学』生活書院
- 庵功雄 (2016a) 「外国人にとっての障壁としての漢字とその対策—日本語教育の立場から—」『要約筆記問題研究』27、特定非営利活動法人全国要約筆記問題研究会
- 庵功雄 (2016b) 『やさしい日本語—多文化共生社会へ』岩波新書
- 庵功雄・早川杏子 (印刷中) 「JSL生徒対象の漢字教育見直しに関する基礎的研究—理科教科書の音訓率を中心に—」『人文・自然研究』11、一橋大学
- 庵功雄・イ・ヨンスク・森篤嗣編 (2013) 『「やさしい日本語」は何を目指すか 多文化共生社会を実現するために』ココ出版
- イ・ヨンスク (2013) 「第14章 日本語教育が「外国人対策」の枠組みを脱するために」庵・イ・森編 (2013) 所収
- 岩田一成 (2010) 「言語サービスにおける英語志向」『社会言語科学』13-1、社会言語科学学会
- 尾崎明人 (2004) 「地域型日本語教育の方法論的試論」小山悟ほか編『言語と教育—日本語を対象として—』くろしお出版
- 森壮也・佐々木倫子編 (2016) 『手話を言語と言うのなら』ひつじ書房
- Iori, Isao & Oka, Norie (2016) "A Preliminary study on teaching written Japanese to deaf children", *Hitotsubashi Journal of Arts and Sciences*. 57-1. 一橋大学

ご清聴ありがとうございました